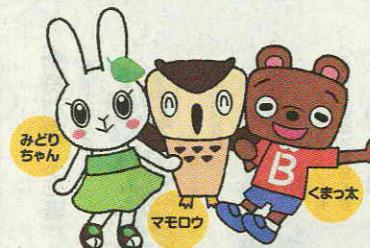


県民環境キャンペーン
も
地球の守り人
減らそう!CO₂



きょうは節水の日

手洗いの時は水を止めるようにする。

(新潟市立新津第一小学校)
笠原 健斗君

新潟は水が豊か、とう理由のひとつに降水量の多さが挙げられる。県内では海岸部を除いて雪がたくさん降るため、年平均が年間約1700mmなのに対し上越市高田地区は約2800mmで、12・1・2月の降水量が年間量の約40%を占めている。雪解け水が地下に浸透するため、県内は地下水の量が多い。きれいな溪流や湧き水が多いのは地下水が豊富にあるから。地下水に浸透する水が多いと、地下水が滞留する時間が短くなり、水に

上越教育大・佐藤芳徳教授

先人に学び節水心掛けて

あまり物質が溶け込まずきれいなまま地上に出た。春先に雪解け水で河川流量が増加するこの問題で大切なのは、防災に知恵を絞った。防災のため堤防や浚渫、分流が重要で、大河津分水などの放水路を建設し発電に利用してから用水路を取り入れ、水道水などを生活用水も発電に利用で重要なことがある。

ぶりと引くことができた出来事だった。新潟は水資源が豊か。酒などもおいしく、水を大切にしている文化がある。

ふりと引くことができた出来事だった。新潟は水資源が豊か。酒などもおいしく、水を大切にしている文化がある。

日本海と山河に囲まれた本県は水が豊かにあり、私たちはその恩恵を受けて暮らしている。水は生命の源。生活に欠かせないからこそ、地球温暖化や水質汚染を進めてはいけない。地球の守り人は本年度、「つなごう未来へにいがたの水」というテーマで、さまざまな角度から水

水のあした

の環境について考えてきた。今回は総集編として、水問題に詳しいNPO法人加治川ネット21(新発田市)、国際協力機構(JICA)新潟デスクの佐脇奈都代国際協力推進員、上越教育大佐藤芳徳教授の3者に、新潟の豊かな水を守るために必要なことは何かーを聞いた。

どう守る ふるさとの環境



かじかわねっと21 1996年11月発足、2003年5月NPO法人設立。会員は個人約90人、団体約30人。



住民が集まり川に愛着わく川に

然から離れて暮らす、集落の連携が薄れた。住民が環境に配慮した川の整備について考え共同作業活動している。

会の発足当初、加治川沿いは冷蔵庫などの家電製品やタイヤ、耕運機などのごみが不法投棄され加治川はとてもきれいな川をいつでも美しく」という思いから、新発田市の加治川流域を中心に約15年間活動している。

まだ、ダムからの放水に

落の連携が薄れた。住民が環境に配慮した川の整備について考え共同作業活動している。

まだ、アユが大きくな

らず、アユが大きくな

らず、アユが大きくな